

5

寒冷地での使いかた

・寒冷地での使いかた

- ・冬の前の準備、点検 5 - 2
- ・走行する前に 5 - 4
- ・走行するときは 5 - 5
- ・駐車するときは 5 - 6
- ・洗車するときは 5 - 6
- ・タイヤチェーンの装着 5 - 7

寒冷地での使いかた

冬の前の準備、点検

■冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着してください

雪道や凍結路では、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）またはタイヤチェーンを装着して走行してください。

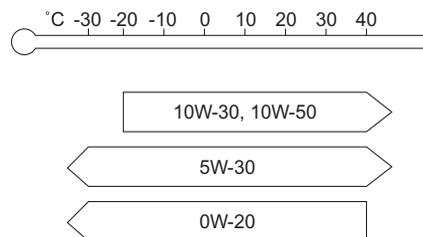
雪道や凍結路の走行が事前に予測される場合には、あらかじめ冬用タイヤを装着しておいてください。

🏠 アドバイス

- 装着についての条例は地区によって異なることがあります。走行する地区の条例にしたがってください。
 - 冬用タイヤ装着のときは、下記事項をお守りください。
 - ・ 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - ・ 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - ・ 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - ・ タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - ・ タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
- ☆5-7ページ参照
- ・ タイヤチェーンを取り付けるときに着用する手袋なども準備しておくことをお奨めします。

■エンジンオイル

下図を参考に、外気温温度に応じたエンジンオイルをご使用ください。



500251

🏠 アドバイス

エンジンオイルは、スバル純正エンジンオイル0W-20（SM級）の使用をお奨めします。
☆8-3ページ参照

■冷却水の濃度点検

冷却水の凍結を防ぐため、スバル純正クーラント（希釈タイプあるいは濃縮タイプ）をお使いください。

- 希釈タイプは、そのままお使いください。
- 濃縮タイプは、濃度を50%の希釈割合（濃度）にしてお使いください。希釈に使用する水は、軟水または水道水をご使用ください。

■ウォッシャー液の濃度調整

ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温度に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

注意

- 外気温度と希釈割合を合わせてください。希釈割合が適切でないとウィンドウに噴射した液が凍結し、視界不良になるおそれがあります。また、タンク内で凍結することがあります。
- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物等が入らないように注意してください。ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液補充後は、ウォッシャータンクからウォッシャーノズル間に残っている補充前の（濃度の低い）ウォッシャー液を除去するため噴射してください。濃度の低いウォッシャー液が残ったままだとノズルが凍結し、ウォッシャー液が出なくなる場合があります。

■バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。必要に応じてバッテリー液の点検や補充をしてください。

別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

■燃料タンクの水分除去

燃料タンク内の水分を除去するときは、スバル純正水分除去剤をお奨めします。

■寒冷地用ワイパーブレードの装着

- 寒冷地用ワイパーブレードは、ブレードの金属部分への雪の付着を防ぎ、降雪期の視界確保ができます。
- 寒冷地用ワイパーブレードは、お車のサイズに合ったスバル純正部品をご使用ください。
- ブレードラバーの寸法は下記のとおりです。

フロント	
運転席側	: 550 mm
助手席側	: 350 mm
リヤ	: 305 mm

注意

高速走行時には、通常のワイパーブレードより拭き取りにくくなる場合があります。その場合には、速度を落として走行してください。

アドバイス

寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時期は、通常のワイパーブレードに交換してください。

走行する前に

■足廻りの点検

車の下をのぞいて足廻り（ブレーキ廻り、ブレーキホース）に雪や氷のかたまりが付着していないか点検してください。

雪道を走行したり、吹雪の中に駐車したときは足廻りに雪や氷が凍結し、ハンドルの切れやブレーキの効きが悪くなることがあります。

付着している雪や氷を取り除いてください。

注意

雪や氷を取り除く場合は鋭利なものや硬いもので叩いたりして車を傷つけないでください。

ABS装着車には各タイヤの内側にABSの車速センサーを取り付けています。これらに傷をつけないようにとくに気をつけてください。

■屋根の雪の除去

走行する前に屋根に積もった雪を取り除いてください。走行中にガラス面に落下すると、視界の妨げとなり危険です。

■フロントガラス下側の雪の除去

雪がたまっているとワイパーブレードが定位置まで戻れず、作動し続けることがあります。作動し続けるとワイパーが損傷する場合がありますので、雪を除去してワイパーを使用してください。

■ガラス面の雪や霜の除去

プラスチックの板などを使用し、雪や霜を取り除いてください。

アドバイス

金属製の板を使用するとガラスに傷がつくおそれがあります。

■ドアを開けるときには

ドアが凍結しているときに無理に開けると、ドア廻りのゴムがはがれたり、亀裂が発生することがあります。ぬるま湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。その後、すぐに水分を充分拭き取ってください。

アドバイス

ドアのキー穴にはぬるま湯をかけないでください。凍結することがあります。

■乗るときには

靴についた雪や氷をよく落としてください。ペダルを操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなってガラスが曇ることがあります。

■暖機運転中

アクセルペダル、ブレーキペダルなどの操作が円滑にできるかを確認してください。

■ワイパーなどの凍結

ワイパー、電動リモコンミラー、パワーウインドウなどが凍って動かない場合は無理に動かそうとしてスイッチを押し続けたりすると、装置を傷めたり、バッテリー上がりを起こすおそれがあります。

無理にワイパーを作動させるとワイパーブレードのゴムが切れることがあります。ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。

- フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを（デフロスター）にしてください。
- リヤガラスは、リヤウインドウデフォッガーを使用してください。

☆3-13、4-3ページ参照

走行するときは

■控えめな運転を心がけてください

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。

エンジンブレーキを使って速度をコントロールするように心がけてください。なお、滑りやすい路面ではシフトダウンによる急激なエンジンブレーキを避けてください。タイヤがスリップするおそれがあります。



アドバイス

雪道や凍結路など滑りやすい道では、2速ギヤでの発進をお奨めします。

チェンジレバーを“2”にします。

（マニュアル車）

☆3-38ページ参照

■ブレーキの効きを点検してください

ブレーキに雪や氷が付着して効が悪くなる場合があります。

走行を開始するとき、車や道路の状況に注意してブレーキの効きを確認してください。

効が悪い場合には、回復するまでブレーキを軽く踏み続けてください。

ブレーキの効きが回復しないときはブレーキの異常が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■ハンドルの切れを点検してください

走行中、足廻りに雪が付着するとハンドルの切れが悪くなる場合があります。ときどき車を止め、足廻りを確認し、取り除いてください。

☆5-4ページ参照

■ヘッドランプを点検してください

ヘッドランプが汚れていると正常に照らせませんので、汚れを拭き取ってください。HIDヘッドランプ装備車は、HIDランプの発熱量が少ないため雪が溶けにくい場合があります。雪を落として走行してください。

駐車するときは

■ 駐車ブレーキの凍結に気をつけてください

駐車ブレーキをかけておくと、駐車ブレーキが凍結することがあります。

次の要領で駐車してください。

- マニュアル車はチェンジレバーを以下の位置に入れます。
下り坂；“R”
登り坂；“1”
- i-CVT 車はセレクトレバーを[P]に入れます。
- 輪止めをします。

■ ボンネット側を風下に

風の当たる部分は、予想以上に低温となります。バッテリー上がりを防ぐためにもボンネット側を風下に向けて駐車してください。

■ 屋外に駐車するときは、ワイパーアームを立てておいてください

- ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防ぎます。凍りつくとラバーにくせがつくことがあります。
- ワイパーアームを立てるときは運転席側を先に起こしてから助手席側を立てます。戻すときは助手席側のワイパーアームを先に戻してから運転席側を戻してください。

洗車するときは

■ 凍結防止剤を散布した道路を走ったとき

早めに洗車してください。洗車するときは下廻りと足廻りも十分に洗ってください。放置すると錆の原因となります。

■ 洗車のしかた

☆7-3ページ参照

■ 洗車後の注意

洗車後、ボディ廻りの水分をよく拭き取ってください。とくにドア廻りは凍結しやすいところです。

また、ブレーキも凍結することがありますので、後続車や道路の状況に注意して効きを確認してください。

☆7-3ページ参照

タイヤチェーンの装着

- タイヤチェーンは付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。
- タイヤチェーンは予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常時のみ、前輪に装着してください。後輪にはタイヤチェーンを装着しないでください。
- タイヤチェーンを装着しても路面の状況によっては極低速でスリップしたり、登坂能力が低下する場合があります。
- アルミホイール、フルホイールキャップ装着車にタイヤチェーンを取り付けると、アルミホイール、フルホイールキャップが傷つく場合があります。

⚠ 注意

- タイヤチェーンを取り付けると前後輪の接地力のバランスが変わるため、後輪が比較的滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 乾いた路面を走行するとチェーンの寿命を短くします。できるだけ避けてください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、後輪タイヤをパンクした前輪に取り付け、後輪に応急用スペアタイヤを取り付けます。そして前輪にタイヤチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンを装着したらタイヤの内側の部分がブレーキ配管、サスペンション、車体などに触れていないか必ず確認してください。
- タイヤチェーン装着後はゆっくりと走行し（100 m程度）、異音やタイヤチェーンのゆるみなどを確かめてください。

■ タイヤサイズに合ったものを使用してください

タイヤチェーンは「スバル純正チェーン」を使用してください。
市販のゴムネットチェーンの中には装着できないものもあります。
詳しくは、スバル販売店にご相談ください。

タイヤサイズ	スバル純正タイヤチェーン			市販JIS チェーン
	スチールチェーン	スプリングチェーン	サイルチェーン	
155/65R14	装着不可	B3177KG000	装着不可	装着不可
155/60R15	装着不可	B3177KG010	装着不可	装着不可

MEMO

